

3学期始業式校長講話



3学期の始業式にあたり目標を持つことの大切さについてお話します。

現在、上中中学校では改修工事が行われています。毎週、工程会議という会議があって、設計事務所、工務店、若狭町関係者、学校関係者などが集まって現在の工事の進み具合や安全面への配慮などをそれぞれの立場で話し合っています。その時に、工程表というスケジュール表が提出されます。そのスケジュール表は何種類かあって、工事開始から終了までの4つのSTEPを示すものや、ひと月ごと、1週間ごとの工程が記されているものがあります。そのスケジュール表はどうやって作られているかという工事の終了日10月31日から逆算してどの時期までにどの程度仕上げれば期限に終わることができるかという視点で作られているのです。つまり、目標期限から逆算したスケジュール表なのです。このことは逆方向設計という表現もありますし、このような考え方を英語ではバックワードシンキングといいます。多くのスケジュールはこのようにして作られるのです。

それではみなさんが目標を立て、達成するためのスケジュール表を作る場合、その期限をどこに設定すればいいのでしょうか。3年生は目の前に迫っている高校受験を一つの目標期限としている人も多いと思いますが、私は就職する時を一つの目標期限にしてみたいと考えます。人生を大きく3つに区切ると鍛える時代（学生時代）、実践の時代（就労時代）、振り返りの時代と言えるでしょう。スポーツに例えるならウォーミングアップの時代、試合の時代、クールダウンの時代と言えるかもしれません。つまり、人生の中で一番重要で一番長い時代が働く時代なのです。

ですから皆さんには自分が働く姿を強くイメージしてもらいたいのです。すでに自分の進む道を決めている人は自分に厳しくなれる人です。なぜなら、やらなければならないことがはっきりしているので辛いことも耐えようとする力が湧いてくるからです。

目標が山の頂上にあるとするならば登るルートは様々です。たとえ自分の思う高校や大学に行けなくてもきちんとした将来の自分の姿を描ける人は必ず頂上まで登ってきます。

高校や大学に合格することだけを目標とする人は目標達成後の努力を怠ります。また、目標を持たない人は、何のために勉強しているのだろう？ 何のために学校に行くのだろう？ と悩みだすことも多いのです。

まだ具体的に働く姿が描けない人もいでしょうが焦る必要はありません。ただ、自分はどんな職業が向いているのだろう。と常に考えて生活してください。人とかかわる仕事が向いているのか、物づくりが向いているのか、自然を相手の仕事が向いているのかなど自分に問いかけるのです。そしていろんな働く人を見て将来の自分と重ね合わせるのです。常にそういう課題意識を持って生活すればいつの日か必ず「これだ！」と思える職業に出会えるはずです。人生の設計図・スケジュール表は目標（到達点）がなければ作れません。皆さんに早くそれが見つかることを願っています。そして努力を重ね、達成してほしいと思います。

裏面もご覧ください

君はボストンダイナミクス社の「アトラス」を見たか



立志式（2/7）の校長寄稿文より

ユーチューブで「ボストンダイナミクス」と検索すれば二足歩行ロボット「アトラス」（左画像）の動画が見られる。驚きとともについにロボット技術はここまで来たかというのが最初の印象である。スターウォーズの「R2-D2」や「C-3PO」の動きが今や滑稽に感じてしまうのは私だけではないはずだ。軽々とバク宙をこなし、雪山では悪路に足を取られながらも二足歩行する姿に救難救助や危険な場面での作業に大きな可能性を感じる。

しかしながら、驚愕や賞賛の後には恐怖や戦慄を感じた人も多いのではなかろうか。そう、SF映画の世界がいよいよ現実味を帯びてくるのである。正にトランスフォーマーやアイロボットである。また、三菱総合研究所では2030年にはAI（人工知能）の普及により雇用が240万人喪失すると予想している。そのことも実感として重く肩にのしかかってくる。

メディアでは、現代を激動・変革の時代と称しているが、生きていく上ではいつの世も激動の時代ではなかろうか。それぞれの時代にはその時代ならではの生きていく上の困難さや閉塞感がある。この立志式の原点ともいえる橋本左内が生きた幕末は、今以上に激動の時代であったことは想像するに難くない。いち早く西洋の医学や自然科学や機械工学に目を向けた左内にとって封建的社会的古いしきたりや世襲制などは大きな障壁として目の前に立ちふさがったことであろう。

15歳で稚心を去り、気を振るい、志を立てた橋本左内。1853年、ペリーの艦隊来航に遭遇した19歳の彼の眼には黒船はどう映ったか。驚愕か恐怖か、それとも明るい未来か。

鳥羽小学校に古い同窓会報があります。今から約100年前、大正4年の会報にこのような記事があります。「最近、扇風機というものが出回っているが医学上、非常に不衛生である。室内の塵をまき散らすため呼吸器に障害が出る。また、音がうるさく神経にもさわる。習慣化すると扇風機がないと熟睡できなくなる。以上の理由により扇風機は人間にとって害はあっても益のないものである。」（文語を口語に直して簡略にしました。）思わず笑みがこぼれます。

この文章も近い将来、「扇風機」と同じように「二足歩行ロボット」やって、と苦笑される日がくるでしょう。しかしながら変わらないものは変わらないのです。左内の「啓発録」は今も新鮮に若者に語り継がれます。そして、上中中学校の歴代の校長は、入学式において体育館に掛かる「去稚心」の額を見上げてその意味を伝えていくのです。

